

第292回触媒化学研究センターコロキウム

共催 北海道大学グローバルCOEプログラム「触媒が先導する物質科学イノベーション」

固体酸表面で形成される活性シリル種を用いたアリル化反応

本倉健 講師（東京工業大学大学院総合理工学研究科化学環境学専攻）



2011年2月28日（月）13:30–14:30

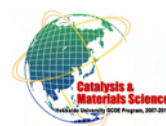
創成科学研究棟4階セミナー室C

<http://www.cat.hokudai.ac.jp/access.html>

シリカアルミナやプロトン交換モンモリロナイト等の固体酸とアリルシランを反応させると、固体表面にシリル種が形成される。このシリル種はアセタールおよびアルケンのアリル化反応に高い触媒活性を示した。例えば、従来、化学量論量のルイス酸が必要な環状アセタールの反応が触媒的に進行し、アセタールの開環アリル化生成物が高収率で得られた。アリル化反応のメカニズムについては、反応前後の表面シリル種の固体NMR測定によって明らかにした。

問合せ先： 触媒化学研究センター・原賢二 (hara@cat.hokudai.ac.jp・011-706-9136)

学歴：1998.4～2002.3 大阪大学基礎工学部・2002.4～2003.3 大阪大学大学院基礎工学研究科 博士前期課程・2003.4～2006.3 大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期過程・2006.3. 博士(工学)取得(大阪大学) 職歴：2005.4 日本学術振興会特別研究員(DC2)・2006.4 日本学術振興会特別研究員(PD)・2006.7 東京大学大学院理学系研究科助手・2007.4 東京大学大学院理学系研究科助教・2008.10 東京工業大学大学院総合理工学研究科 講師



292nd Catalysis Research Center (CRC) Colloquium

Hokkaido University Global COE Program "Catalysis as the Basis for the Innovation in Materials Science"